自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標 **合言葉を『三笠はひとつ、三笠はならのまほろば』とし、** 奈良の中心地としての文化・誇りを再確認し、新たな郷土愛や誇りを育む。

【今年度の取組紹介】

○子ども未来会議

各校で共通の教材を用いて事前学習を行い、各校の意見を踏まえたうえで、子ども未来会議では各校の代表者がオンラインでつながりました。地域の方が準備をして、校区出身の大学生たちが司会を務め、小中学生が積極的に意見を出し合いました。今回のテーマである「環境」を考えることで、地域にある河川から世界遺産や伝統的な文化にまで視点を広げ、今後の目標として「わたしたちが考える環境を守るためのお約束」を決めることができました。





○おうちで楽しくチャレンジ(本の帯、「三笠はひとつ」デザイン募集)

夏休み中に、地域教育協議会の新たなデザインとなるべく地域に対する思いやイメージをイラストで募集しました。園児から児童・生徒までの幅広い子どもたちの参加があり、「友だち」や「仲間」といった絆やつながりをイメージした思いが溢れるイラストがたくさん応募されました。各校での展示、広報紙での掲載に加えて、デザインファイルとして、広報紙とともに配布することができました。子どもたちの思いや地域の事業をより多くの方に知っていただく機会になりました。

【今年度のまとめ】

新型コロナウイルスの影響で計画していた事業の中止が続きました。その中で、今年度、状況に応じた新しい提案・検討を繰り返してきました。できることを継続し、さらに発展するように取り組んできました。

感染予防対策を講じて実施できたオンラインでの子ども未来会議では、将来の地域を支える人材交流の場が形成でき、子どもたちの育ちと学びを実感することができました。また、昨年度に新しい事業として取り組んだ「おうちで楽しくチャレンジ」を継続し、地域への広報活動としても生かすことができるなど、よりよい活動の内容に発展させられました。

【来年度に向けて】

来年度も、新型コロナウイルスの影響を受けることが予想されます。限定的であるために事業に対する子どもたちの取組の意欲が高いことも生かせるように、実施できる新しい事業の検討やこれまでの事業を発展的に進めていきたいです。地域教育協議会の活動への理解と啓発を進め、地域の絆と協働による地域の活性化につながるように取り組んでいきます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、

自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取 組 目 標

学校を支援してもらうだけが目的ではなく、 地域力の醸成や住民自身のやりがいを感じる場をつくり、 地域と学校との間に良好(双方にメリット)な関係づくりをめざす。

【今年度の取組紹介】

本校は地域教育協議会を『コミュニティ・スクール』の四つの部会である「学び支援」「育ち支援」「地域連携」「学校評価」の実働組織である「地域連携」として位置づけ活動しています。部会は、学校の教育目標を学校・家庭・地域で共有し、組織的・機能的に運営していくことで職員、保護者、地域の協働意識を高めるとともに、生徒の抱かえている課題をそれぞれの立場で把握し、具体的な活動に取り組み、課題の解決に努めています。教員が子どもと向き合う時間確保のため、図書ボランティア、キャリア教育など教育課程内にも支援を広げています。

さまざまな実社会で経験を持つ大人が工夫を凝らした授業を展開することにより、子どもだけでなく教員も課題解決力の向上や、明確な教員としての目的意識・責任感を養うことにつながっています。今年度も、新型コロナウイルス感染予防のため活動は少なかったですが、清掃活動等に参加し、地域の方々との活動を通して、社会性やコミュニケーション能力を育み「生きる力」を培ってきています。特に進路に向けた面接練習として、企業勤務経験者などの地域住民が、面接官となり、目前の高校進学だけでなく勤労観・職業観を養い、社会自立をしていくことに対する目的意識を持たせることにつながっています。







【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染防止対策を講じて学校内での「ゲストティーチャー」「面接指導」等に地域の方々に来て頂き、実施することができました。地域の方々には、教員とは違った視点からたくさんのことを子どもたちに伝えて頂き、子どもたちの学びを支えて頂きました。一方、コロナ禍の中、地域に出向いてのボランティア活動がほとんど行えなかったことから、多くの大人たちに評価をいただく機会、自己有用感を味わう機会が少なくなったことは残念に思います。

【来年度に向けて】

これまで培った地域コミュニティでの協働体制を大切にし、子どもたちのため、学校や地域のため に活動することを通して、『みんなで支え、みんなで育てる』と同時に『学校・地域のみんなが育つ』 ための核となる組織づくりを目標に、さらに取り組んでいきます。

自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組 目標

世界にはばたく世界で活きる椿井っ子

【今年度の取組紹介】

奈良市の中心部に位置し、多くの寺社や観光名所が校区内にある本校は、長い歴史と伝統を有する学校であり、地域の方の愛校心が強く、また学校教育に対する関心も高いです。そのため何事にも協力的です。こういった素晴らしい環境や地域の教育力を生かし、自分たちのまちに誇りをもつとともに、積極的に活動し、表現や発信のできる児童の育成を目指して取組を進めました。

新型コロナウイルス感染症の流行下で、活動にも様々な制限がありましたが、できる限り今までの取り組みを踏襲する形で事業を進めました。学校地域支援事業においては、人・モノ支援センターの皆様の協力を受け、盲導大学習を行いました。郷土学習事業おん祭り学習では、地域の方においでいただき、おん祭りについてお話を聞かせていただき、地域に伝わる伝統行事を学ぶ機会を設けることができました。





おん祭り学習

【今年度のまとめ】

学校の教育活動に非常に協力的な地域の方々に支えられて取組を進めていくことができています。 コロナ禍で非常に制限の多い中でしたが、感染拡大防止策を講じながら活動することができました。 環境整備事業においても、学校や地域を大切に思う方々の存在に子どもたちが改めて気づき、感謝する気持ちを育てることができました。

【来年度に向けて】

来年度は、今まで続けてきた取組の見直しを行い、継続を基本線として可能な範囲での精選を検討していきます。これまで協力していただいた地域の方々を大切にしながらも、新たな地域人材の活用など取組をより発展させ、本校の教育目標の達成を図れるようにしていきたいです。

大宮アクション

自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取 組 目 標 夢を持ち、夢を語り、夢を叶えるたくましい子どもを育てる

【今年度の取組紹介】

◆子ども未来会議

- ・12月23日に「第12回子ども未来会議」を開催しました。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、「リモート会議」にて実施しました。各小学校児童、中学校生徒の代表がタブレットを使用して会議に参加しました。
- ・教育実習生が進行するという形式で、それぞれの学級、学年で集約した意見を伝えることからスタートし、徐々に意見交換を進めていきました。意見をまとめることに苦労しましたが、実りのある会議になりました。
- ・リモートならではの難しさもありましたが、観覧した保護者の 方から「今回のリモート会議はいい記念になるのではないか」と いうお言葉をいただきました。直接会うことはできなくても、オ ンラインで人と繋がることができる新たな可能性を感じた「子ども 未来会議」となりました。



【今年度のまとめ】

- ・例年、地域の方々からたくさんの協力を得て実施してきた取組は、コロナ禍のなか実施できることは限られました。その状況を踏まえて新型コロナウイルス感染対策をとり、子どもたち、あるいは大人だけでもできることを続けたり、オンラインを活用したりしながら可能な範囲で実施しました。
- ・オンラインを活用した「子ども未来会議」は、三笠中学校区出身の卒業生が主体的に関わり進めて くれました。本取組の趣旨を理解しながら皆で協力して実施できたことは意義深いと考えています。 現在の小学生が、近い将来、今回の卒業生のように活躍してくれることを期待しています。

【来年度に向けて】

- ・地域ボランティアの方々の高齢化に伴い、新しいボランティアの発掘が今後もまだまだ必要になります。学校ホームページ等様々な方法を用いて情報を発信し、さらなる協力者を募っていきたいと思います。
- ・コロナ禍での対策を踏まえた取組の進め方を検討していく必要があります。

自分自身に誇りを持って、未来を切りひらく子ども

取 組 目 標

自尊感情をもち、地域・仲間とつながって健やかに生きる児童を育成するための地域教材や人材を生かした取組の充実。

【今年度の取組紹介】

本校の取組の特色の1つであるのが、「雅楽体験」を取り入れた音楽教育を活用した教育活動です。 南都楽所の講師先生の指導も受けながら、取り組む予定でした。日本の伝統芸術文化を体験できる貴重 な機会になっているのはもちろんですが、大西小の伝統を受け継ぐ誇りを感じ、地域・仲間とつながる 思いを味わうことができていました。しかし今年は、コロナ禍により断念いたしました。







また、本校の前を流れる佐保川とその自然環境をテーマにした「佐保川環境学習」にも継続して取り組む予定でしたが断念いたしました。色んな行事に制限がある中、地域の方々と共に行う「佐保川清掃」・「河川植樹」活動は行うことができました。「わが町を流れるふるさとの川を大切に思う心」を育むことができ、「大好きな大西小を誇りに思う心」の育みにつながっていることを実感する取組となりました。また、コロナを懸念しながら、第9回校区成人式を行うことができました。今年度も短時間で密にならないように内容でしたが、新成人にとって少しでも成人の門出になる行事になるように恩師の参加のもと行いました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍により、限られた活動となりました。本来なら、豊富な行事に学年間で参加体制を調整し、 地域の環境保全の取組や行事を各学年の教育課程に効果的に組み込んで実施する予定でした。美しい 佐保川の川辺で四季を通じて集えるのは、「佐保川清掃」をはじめとする日頃の様々な取組があっての ことということ改めて感じました。

また、第9回目を迎えた校区成人式ではなつかしい校舎に集い、和やかなひとときを過ごしました。

【来年度に向けて】

コロナ禍を想定するとなかなか活動が厳しい状況ではあります。また、地域の高齢化などに伴い、 地域人材の確保が厳しくなっている状況があります。3年前から始めた「地域ボランティア募集」の 呼びかけをさらに充実していき、人材確保をしたいと思います。また、各取組を今後も継続して無理 なく充実させていく上でも、地域・学校・家庭の3団体が熟議を重ねながら、より効率的かつ効果的 な事業となるよう、今後も検証・改善を行い、地域・学校・家庭が一体となり、『ふるさとを誇りに思 い、大切にする心』を育んでいきたいと考えています。

自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組 目標 地域にある自然環境や文化的歴史遺産、さらには、地域の豊かな人 材を活用しながら、心豊かで人や物に優しく、地域を愛する子どもを育む。

【今年度の取組紹介】

【 佐保川清掃活動 】

佐保川の環境を守る活動として、地域の方々と共同で取り組む 佐保川清掃は、生きた学習環境を提供してくれる佐保川をみんな で大切にする心を育みます。そして、地域の方々とこの気持ちを つなげる大切な取組でもあります。



【 図書充実活動 】

地域の方々による図書室の環境整備や図書修繕を行っていただきました。

「たくさんの子どもたちが読む本だから」と、一冊一冊丁寧に「シワ」ができないように工夫しながら、本の表紙にシートを張って丈夫な本にしてくださいました。読書は「心のビタミン」といわれています。子どもたちに読書の素晴らしさを伝え、本との出会いを促し、豊かな心を育むことに大いに役立てることができました。

【今年度のまとめ】

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため、咳エチケットや手指の消毒に加えて、 換気の充実、三密の回避などが余儀なくされた1年でした。その中でも、感染状況が落ち着いている 期間に、図書充実活動や環境整備活動事業などを行ってくださり、子どもたちの教育環境の向上につ ながりました。

【来年度に向けて】

体験的な活動を通して、地域の方々を通して、地域の方々と触れ合い、地域の行事に積極的に参加する等、子どもたちに体感させることが重要であると考えます。佐保川小学校の校区を愛し、地域に誇りをもつ子どもの育成を目指したいと考えます。

自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組 目標 地域の人材や教育力をいかした多様な体験活動を進めながら、 人と関わる楽しさを感じ、豊かな感性やたくましい心を育む取組の充実。

【今年度の取組紹介】

《お話に親しむ事業より》

地域の方にゲストティーチャーやボランティアとして、年間通して 12回絵本の読み聞かせに来ていただきました。子ども達の年齢や興味を 考慮して絵本を選んでくださることで、回を重ねるごとに「今日はどんな



お話かな」と楽しみに待つ子が増えてきました。初めは緊張したり退屈になったりしていた子も、 手遊びやパペットなども取り入れて話してくださることで声を上げて楽しんだり感じたことを言 葉で表現したりして豊かな感性を育む機会となっています。お話が終わると、「おもしろかったぁ」 「また来てね」と地域の方に親しみの気持ちをもてるようにもなっています。弁当後に友達と絵本 の部屋に行って好きな絵本を選び楽しむなど、その経験が日々の生活にもつながっています。

《地域で学ぼう事業より》

地域の方にゲストティーチャーで来ていただき、生け花を教えていた だきました。花の名前や生け方を教えていただくと、好きな花や色を選 んで、生けていました。出来上がった作品を園内作品展に展示し、地域の 方や友達、お家の方に褒めてもらい、満足気に喜んでいました。その後



も園庭や個人栽培の花を見て、生長に気付いたり「何色の花が咲くのかな」と楽しみにしたりする 姿が見られ、関心をもつ子が増えました。

【今年度のまとめ】

地域の方と内容を工夫し出来る範囲であったが、たくさんの事業を実施することができ、様々な方と触れ合うことが出来ました。そのことで、豊かな感性やたくましい心を育めたことはもちろん、地域の方への親しみの気持ちやコミュニケーション力が育ったことを実感しました。また、広報事業として写真掲示や HP、紙面等で地域や保護者の方に取り組みを知らせ啓発していくことで理解を得ることが出来、保護者の園教育アンケートの結果では、事業の取組について高評価を得ることが出来ました。

【来年度に向けて】

子ども達にとって充実した体験活動を、来年度も継続していくことで、子ども達に身につけていきたい力が培われていくと思われます。今後も、今年度の成果や課題を踏まえながら地域の方と打ち合わせを十分に行い、実施していきたいと思います。また、今年度は、地域に出かけることがあまりなかったので、大宮地区を知り、親しみをもてるような機会を計画していきたいと思います。

郷土を愛し、夢と希望をもち、 めざす子ども像

自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取 組 目 標 ・子どもたちの興味・関心に基づいた直接的・具体的な体験活動の実施

子どもが主体的に活動できる環境の構成

【今年度の取組紹介】

〔栽培活動事業〕

地域の方にゲストティーチャーとしてお越しいただき、畑の畝づくり から収穫までを、子ども達に直接かかわり丁寧に指導いただき、タマネギ 豆・サツマイモ・大根と、季節を感じながら学ばせていただいています。 また今年度は、昨年度より早く田植えをさせていただき、僅かながら 米の収穫を体験できました。子ども達は一粒一粒、心を込めて殼をむき 家庭に持ち帰りました。後日持ってきたおにぎりで、白米の中にまぎれ た玄米を見つけては嬉しそうに知らせる姿は、とても微笑ましいもので した。地域の方々のご協力により、貴重な体験をさせていただき、保護



〔学習支援事業〕

者からも感謝の声が寄せられています。

昨年からの感染症対策の為、戸外で思いきり体を動かせる機会が減少 していることから、鉄棒にぶら下がるとすぐに手を放してしまう年中児 が、多かったことにも驚きを隠せない状況でした。そんな中での「体操 教室」や「チャレンジクラブ」の体験は、自分の身体の動かし方を学ぶ、 とても大切で必要な取組となっています。



【今年度のまとめ】

様々なことにまだまだ制限が多い状況の中、地域の方々のご協力のおかげで、少しずつ事業を実施 することができました。栽培活動からは、労働の大変さや食物のありがたさを体感し、「体操教室」 や「チャレンジクラブ」では、楽しみながら、身体の使い方を知るという大切な経験を重ねることが でき、普段の保育に取り入れながら、運動遊びに興味を持つことができるようになってきました。今 後も保護者や地域の方には、ホームページや地域の会合等で園生活の様子や園児の成長を発信しなが ら"地域の中の幼稚園"として、よりご理解・ご協力を得られるようにしていきたいと思います。

【来年度に向けて】

民間移管を予定される中、地域の方や保護者も園児の成長を願い、共に事業の継続を望む声が届い ています。今年度の成果や課題を受けて、回数や行事の精選をしながら、保護者や地域の方のお力を 借りて進め、次へと引き継いでいけるようにしていきたいと思います。